

ISO 認証機関

ASR エイエスアール 通信

<https://www.armsr.co.jp/>

2024May
VOL.44



contents

- エイエスアールのお客様紹介 p.2-3
新日本輸送株式会社様
- マネジメントシステムの運営管理に活用できる p.4-5
手法・ツール (その9)
課題達成型QCストーリー
- ASR博士の環境レポート p.6
生物多様性の保護
- 企業向けISO関連教育サービス p.7
- 組織様向け情報 p.8

新日本輸送株式会社様

(奈良県大和郡山市)

今回は、新日本輸送株式会社様をご紹介します。

新日本輸送株式会社様は、奈良県大和郡山市に本社を構える、輸送・倉庫業をメインとされる組織様です。

お話を伺った代表取締役社長の川井徳子様は同社の他、不動産業、観光業、デザイン業など5つの会社を束ねるノブレスグループの代表も務められ、地域の活性化などにも取り組んでいます。



代表取締役社長 川井 徳子 様

ーまずは御社の概要についてお話しいただけますか。

当社は私の父親が創業し、不動産業からスタートして50年前に物流の仕事を始めました。

当時、物流事業は免許制で許可を取るのがとても難しい時代でした。もともと祖父が魚の卸をやっていて、貨物輸送で魚などの輸送をしていたのですが、その後トラック輸送が重要になってきた時代に、市場の青物、野菜などを運ぶということで免許をいただいたのが始まりです。

いまは奈良県大和郡山市と三重県名張市を拠点に一般貨物の輸送と倉庫業をメインに、不動産業やメガソーラー事業も手掛けています。

事業を通して安全で信頼できる地域社会づくりに貢献することを目指し、地元である奈良と隣県三重を中心に全国へ物流サービスを展開しています。

ー川井社長は御社を含めたノブレスグループの代表も務められていて、グループ全体ではかなり手広く事業を展開されておられます。

昭和30年代から40年代は高度成長期だったこともあり、物流は規制が厳しい分守られていた産業だったので、業績も右肩上がりでは伸びていた時代でした。のちに私が会社を継いだ際に、自分一人で物流事業だけで会社を大きくする、というのは自信がなかったもので、不動産業である強みを生かして賃貸住宅の所有を増やし、倉庫業を中核にして倉庫と物流部門を増やすなど、得意な分野に力を入れて事業として伸ばしてきました。

さらに人口が減少傾向にある社会の中では、住宅

をたくさん売るのは難しい時代になるのではと考え、奈良という土地柄を生かして、維持が難しくなった古いホテルを再生したり、レストラン、お土産屋など観光事業を展開したりして会社の軸を増やしてきた経緯があります。

ーISO関連のお話を伺います。2006年にISO9001を取得されていますが、そもそもの取得のきっかけはなんだったのでしょうか。



1990年代に物流の規制緩和が始まり、業界がかなり大きく変化していきました。その後、2000年代に入って3PL（Third Party Logistics：荷主に対して物流改革を提案し、包括して物流業務を受託し遂行すること）という話や、ISOの話題も広がってきて、物流業界全体が大きく変わろうとする潮目がありました。品質向上や3PLなどを倉庫業含めてやろうと思ったら、まずはISOを取っておくことが業界で生き残っていくのに大事なのではないかと考えて取得しました。

ー当時物流業界の中でISOの話題が出ることはありましたか？

他社でも取得の動きがありましたが、2000年に入って国交省からGマーク（輸送の安全の確保に積極的に



取り組んでいる事業所を認定する、日本トラック協会の制度）という仕組みができました。そうすると業界の中の動きとして、ISOを継続するよりもGマークを取得することで、コストを削減しようとする会社も多かったかと思います。

弊社の場合は、海外への輸出品などを扱う荷主さんもおられるので、ISOを持っていないと困るだろうと考えたことがポイントです。今は継続することが、品質の向上を通じて利益につながると考えています。

—ISOを導入するにあたり苦労された点等はございましたか。

取得の時に一番大変だったのは現場のドライバーさんと事務方の間にあるギャップです。言語化できないこと、可視化できないことがたくさんあり、それを一つ一つ埋めるのが最大のハードルだったと思います。

現場にはそれまで培ってきたやり方がありますから、それを今までと違う手順でやりなさいと言われても、すんなりと受け入れてもらうのはなかなか難しく、そのための準備と説明には時間をかけました。

—実際にISOを20年近く維持されておられますが、そのために努力されていることはありますか。

お客様である企業からは、今年はISO関連では新しい取り組みをされていますか、と聞かれることがあるのが、ものすごくプレッシャーです。審査員よりも厳しいです。

そのため安全意識の向上を目指して、年2回開催する社内の定例会議のテーマには、毎年悩んでいます。昨年の11月は、雪の日対策としてタイヤメーカーの方に来ていただき、タイヤチェーン装着の実技勉強会を開きました。そして勉強会の時、教えていただいた降雪時のお役立ちツールを、後日全てのドライバーに配布しました。ドライバーの安全を最優先に考えることが、貨物輸送そのものの品質を上げていくことになってと思っています。現場で働く社員が困らないように、継続的に支援する仕組みづくりを大切にしています。

業界的には2024年問題(2024年4月1日以降、自動車運転業務の年間時間外労働時間の上限が960時間以内に制限されることによって発生する問題)が大きくク

ローズアップされています。私どもはISOを維持する中で、労働環境改善などにも取り組んでおりますので、余裕をもってクリアできています。

ISOの考え方は、物流部門だけでなく全社のマネジメントに大きく影響を与えていると思います。

—ISO以外で会社での取り組みなどはございますか。

一つは「東北わくわくマルシェ」という東北の復興支援の事業を行っています。

震災のあった2013年に現地に向かった際に、復興食堂という活動をやっていた方を紹介していただきました。それをきっかけに、関西の百貨店の催事場などで、東北の名産品・食品・お酒などを販売する事業を始めて10年になります。いまは関西だけでなく、四国や九州など全国各地の百貨店にも広げて、東北の魅力をご紹介するイベントなどを行っています。

もう一つ、SDGsを実現するための次世代への教育、ESD（Education for Sustainable Development：持続可能な社会の担い手を育てる教育）にも、力を入れています。奈良という土地柄もあって修学旅行に来られる方も多いので、その中に「奈良SDGs学び旅」というテーマで従来の歴史学習だけではなく、次世代を担う子供たちに、SDGsの学びを支援することを目的にした活動です。

ESDというのは教育指導要領にも載っている言葉なのですが、学校の先生方の中にはどのように取り組んだらいいかわからない、という方も多いのです。そこで実際に事例としてわかりやすく提示しようと、先生の研修用の冊子を作ったり、奈良を巡るツアーやワークショップなどを企画しています。

—御社のPRをいただければと思います。

奈良県の小さな会社ですが、社員の協力もあって、ISOをここまで長期に維持し続けることができ、なおかつ事故が少ない会社として評価を受けております。安全性、品質への自負を持って社会貢献していきたいと思っておりますので、これからも見守っていただけると嬉しいです。

現場の社員たちには様々な苦労をかけている面もあり申し訳なく思っておりますが、会社の成長の中で社員が幸せになれる環境づくりにも力を入れています。

歴史ある奈良という土地で、地元根付き、会社の成長とともに地域社会との深いつながりと貢献を大切にされておられる様子が、お話の中であかがえしました。お忙しい中、ありがとうございました。

当コーナーでは、弊社の登録企業様のISO活動や事業をご紹介します。事業への思いや取組みなどについて、PRしてみたい企業様は、是非、下記宛にご連絡ください。
ASR通信 事務局 E-mail: otoiwase@armsr.co.jp

マネジメントシステムの運営管理に活用できる手法・ツール

その9

～ 課題達成型QCストーリー～

1. はじめに

今回は、マネジメントシステムの改善を行うためのツールとしてよく用いられる不確定要素が多い場合の目標を達成するために活用される“課題達成型QCストーリー”について解説します。

2. ISO 9001 との関係

課題達成も改善のための活動であり、これは方針管理において実行されるので、“6計画”と関係があります。したがって、課題達成型QCストーリーは、次に示す、品質マネジメントシステムの計画策定で活用すると効果的です。

6.1.1 品質マネジメントシステムの計画を策定するとき、組織は、4.1 に規定する課題及び 4.2 に規定する要求事項を考慮し、次の事項のために取り組む必要があるリスク及び機会を決定しなければならない。

(略)

6.1.2 組織は、次の事項を計画しなければならない。

a) 上記によって決定したリスク及び機会への取り組み

b) 次の事項を行う方法

- 1) その取り組みの品質マネジメントシステムプロセスへの統合及び実施 (4.4 参照)
- 2) その取り組みの有効性の評価

3. 課題とは

課題とは、設定しようとする目標と現実との、対処を必要とするギャップのことです。ギャップとは、達成すべき目標と現状のレベルとの差のことであり、これを論理的な方法で対策を検討し、解決することが必要です (図1 参照)。

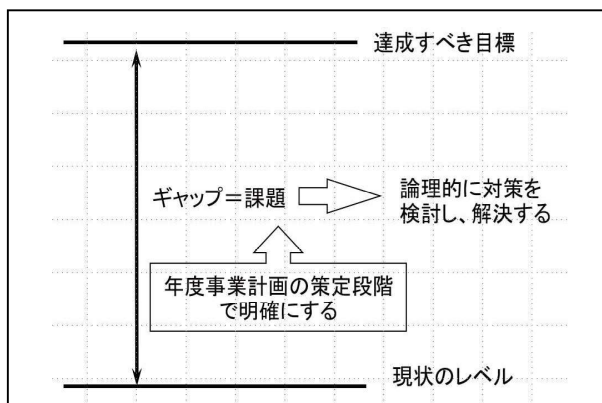


図1

したがって、新しいプロセス・仕組みを作る場合などの課題を解決するためには、課題達成型QCストーリーに基づいた活動が効果的です。

なお、課題達成の適用領域には、既存分野の現状打破、新規分野の開拓、及び魅力的品質の創造に関するものがあるので、課題を解決するためには、その達成に要する期間が長くなる傾向があります (図2 参照)。

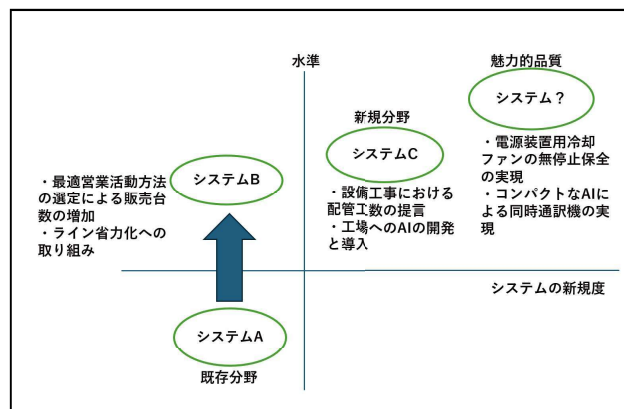


図2 課題達成のねらいと事例

4. 課題達成型QCストーリー

課題達成型QCストーリーとは、課題を解決するための基本的な改善の手順を示したものであり、以下に示すように8つのステップに基づいた改善活動の進め方を示したものです。

【課題達成型QCストーリーとその着目点】

STEP1 経営方針の認識

- ・上位職位とのコミュニケーションは十分か
- ・経営方針 (中長期計画、年度経営方針、上位方針) 設定の背景を理解しているか
- ・達成すべき目標レベルを確認しているか
- ・活用可能な経営資源および達成期限を確認しているか

STEP2 課題の設定

- ・社内外の関連情報の収集と動向分析を行っているか
- ・課題候補を列挙しているか
- ・経営方針に対する効果を予測しているか
- ・課題の評価と絞り込みを行っているか
- ・目標の設定を行っているか

STEP3 方策の立案・選定

- ・選定
- ・関連する既存プロセスのレベルを評価しているか
- ・ハードル・ギャップの把握と攻め所を設定しているか
- ・評価項目の設定と効果予測の確認を行っているか
- ・方策の評価と絞り込み・選定を行っているか

STEP4 成功シナリオの追究

- ・障害の洗い出しとその対応策の追究を行っているか
- ・方策実現のためのシナリオの立案を行っているか
- ・シナリオの評価を行っているか
- ・実施計画の立案を行っているか

STEP5 シナリオの実施

- ・経営資源（人、物、金、情報など）、組織化を行っているか
- ・シナリオを実施しているか

STEP6 効果の確認

- ・目標と実績の対比を行っているか
- ・活動プロセスの実施状況の評価を行っているか

STEP7 定常業務への移行

- ・定常業務として取り扱う組織を明確化しているか
- ・標準化と管理の定着化を行っているか

STEP8 今後の対応

- ・未対応、未解決部分を整理しているか
- ・具体的な対応方法を明確化しているか
- ・問題点の認識とその解決策を検討しているか

方策や障害の列挙に役立つ手法として、次に示すものがあります。

① ブレインストーミング

A・F・オズボーンによって考案された会議方式の一つであり、一般的には、10名以下の人数で、自由な意見を出し合って、判断や批判などを行わないというルールで行うものです。これは特性要因図を作成する際にも使われます。

② ブレインライティング

ホリゲルという形態分析法の専門家によって考案された思考法であり、6人ずつの参加者で、3つずつアイデアを各自が考え、5分以内で用紙に記入し隣に回すという方法です。この技法の最大の特徴は、全員無言で集団思考を行うことです。

③ チェックリスト法

A・F・オズボーンによって考案された、アイデアを引き出すための質問表を集約してチェックリストにしたものです。次に示す9項目にまとめたものです。

- ・転用：他の用途、他に使い道はないか？
- ・応用：応用できないか？他のネタをアイデアとして転用できないか？
- ・変更／修飾：変えてみたらどうなるか？
- ・拡大：何かを付け加えてみたら、どうなるか。拡大～拡張～追加～重くしてみたら？
- ・縮小：縮小～分割～削除～軽くしてみたら？
- ・代替／代用：他のもので代用したら？
- ・組み替え／置換：アレンジ～入れ替え～再編したら？
- ・逆転：逆にしたら？
- ・結合：組み合わせたら？

④ 特性列挙法

米国ネブラカス大学のロバート・クロフォード教授によって考案された思考法であり、物や対象物の特性を分析する技法です。

⑤ 希望点列挙法

米国GE社の子会社であるホットポイント社が開発した手法であり、現物や現実から離れて希望や夢を挙げ、そこから積極的に問題を発見し、夢を実現するためにアイデアを出す技法です。

⑥ 欠点列挙法

米国GE社の子会社であるホットポイント社が開発した手法であり、対象の欠点、問題箇所、マイナスを徹底して列挙し、その解決策をまとめていく技法です。

⑦ 系統図法

新QC七つ道具の一つであり、漠然とした問題（事象）に一覧性を与えて問題の重点を明確にし、目的・目標を達成するための最適な手段・方策を追求していく方法です。

したがって、課題達成型QCストーリーを活用することで、課題を効果的で効率的に解決することができます。

「マネジメントシステムの運営管理に活用できる手法・ツール」は今回が最終回となります。次号より「ISO9001の勘違い」（仮題）をお届けします。

福丸 典芳 氏

(株)福丸マネジメントテクノ代表取締役

著者紹介

日本規格協会品質マネジメントシステム国内委員会の委員を務め、ISO 9001の規格作成にも携わる。

コンサルティング業務、講演会・研修会の実施、書籍の執筆など多方面で活躍。

近著に「ISO統合マネジメントシステムの構築と内部監査の実践」がある。



生物多様性の保護

～地球上の宝物を守るための取り組み

1. はじめに

生物多様性は、地球上の生命の多様性と豊かさを表す重要な概念です。しかし、現在、生物多様性は急速に減少しており、生態系の安定性や持続可能な開発にも深刻な影響を与えています。ここでは、生物多様性の重要性、主な脅威、そして生物多様性を保護するための取り組みについて探っていきます。

2. 生物多様性の重要性

生物多様性は、次のような意味において、地球上の生命の豊かさと健全性を維持するために不可欠です。

a. 生態系の安定性

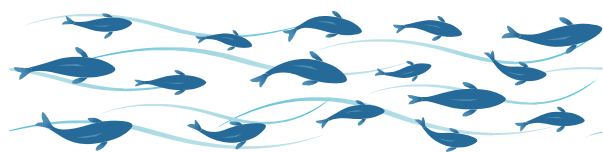
生物多様性は、生態系の安定性を保つために重要です。様々な生物種が相互作用し、生態系のバランスを維持しています。一つの種の消失が、その生態系全体に悪影響を与える可能性があります。

b. 食物の安定供給

私たちの食物の安定供給にも関わっています。農業、漁業、林業など、私たちの生活に必要な資源は生物多様性に依存しており、農作物の受粉や土壌の健全性など、生物の役割が重要です。

c. 新たな医薬品や技術の発見

新たな医薬品や技術の発見にも重要な役割を果たしています。多くの生物種には、未知の化合物や生物活性物質が含まれており、これらを研究・利用することで医療や産業の分野での進歩が可能になります。



3. 生物多様性の脅威

人間の活動により、生物多様性は大きな脅威に晒されています。生息地の破壊や縮小、生物の乱獲や密猟、そして環境汚染と気候変動がその主な要因です。

都市化や農地の拡大により、森林伐採や湿地の埋め立てなどが進み、多くの生物種が生存を脅かされています。違法な乱獲や密猟は希少な動植物の絶滅を加速し、生物多様性の減少に拍車をかけています。そして、環境汚染や気候変動は、大気や水質の汚染を引き起こし、生物種の個体数や分布に影響を与えると同時に、生態系の変化によって生物種の適応能力を上回る可能性があります。

このような人為的な要因が、生物多様性の持続可能性に深刻な影響を与えています。したがって、生物多様性を保護し、持続可能な未来を確保するために、積極的な対策が必要です。



4. 生物多様性の保護のための取り組み

生物多様性を保護するためには、個人や組織、国際的な取り組みが必要です。以下に、生物多様性の保護を促進する具体的な取り組みをいくつか紹介します。

a. 自然保護区の設置と管理

自然保護区の設置と管理は、生物多様性の保護に重要な役割を果たしています。これには、陸地や海洋、湿地などの多様な生態系を保護するための努力が含まれます。

b. 野生生物の保護と取り締まり

野生生物の保護と密猟の取り締まりは、生物多様性の保護において重要な役割を果たします。適切な法執行や監視体制の確立、密猟に対する厳しい法律の施行などが求められます。

c. 持続可能な資源利用と農業の改善

持続可能な資源利用と農業の改善は、生物多様性を保護するための重要な手段です。持続可能な漁業や森林管理、有機農業の推進などが、生物多様性の喪失を防ぐために必要です。

d. 教育と意識の啓発

生物多様性の保護には、教育と意識の啓発も不可欠です。人々の生物多様性に対する理解と関心を高めることで、持続可能な行動と政策の促進が可能になります。

5. おわりに

生物多様性の保護は、私たちが直面している重要な課題です。生態系の安定性や食物の安定供給、新たな医薬品や技術の発見など、生物多様性が私たちの生活と未来に与える恩恵は計り知れません。

私たちは、自然保護区の設置や管理、野生生物の保護と取り締まり、持続可能な資源利用と農業の改善、教育と意識の啓発などの取り組みを通じて、生物多様性を守るために行動する必要があります。また、ISO14001への取り組みは、組織が環境に配慮した持続可能な運営を実現し、その一環として生物多様性の保護に効果的に取り組む手段となります。

私たちの努力と協力によって、未来の世代に美しい自然と豊かな生物多様性を残すことができるでしょう。

エイエスアール主催

企業様向け ISO関連教育サービス

決まった時間に講師が解説するセミナーと、自由な時間に自分のペースで学べる学習動画（e-ラーニング）が、自分のスタイルに合わせて選べます。

▶ ISO関連セミナー（2024年6月～2024年8月）

内部監査員養成セミナー

1日/2日

ISO9001・ISO14001・ISO/IEC27001・ISO45001

ISO規格要求事項の解釈、内部監査員に必要な基礎知識と技能を実践的な講義と演習で学習します。

集合セミナー

1日

品質	東京	6月 6日(木) 6月 19日(水) 7月 3日(水)	環境	東京	6月 20日(木) 7月 4日(木) 7月 25日(木)
	名古屋	6月 13日(木) 7月 11日(木)		名古屋	7月 12日(金)
	大阪	6月 12日(水) 7月 18日(木)		大阪	6月 11日(火)
労働安全	東京	7月 2日(火)	情報	東京	6月 28日(金) 7月 26日(金)
				大阪	8月 9日(金)
URL	https://www.armsr.co.jp/asr_pc/internalaudit/internalaudit.html				

ISO入門セミナー

半日

ISO9001・ISO14001・ISO/IEC27001

「ISOとは何か」から始まり、マネジメントシステム規格がどのようなものかといった、ISOの基礎を解説するセミナーです。

WEBセミナー

品質	6月 21日(金)	時間	9:00～12:00
環境	7月 1日(月)		
情報	6月 3日(月)		
労働安全	6月 5日(水)		
URL		https://www.armsr.co.jp/mss11.html	

規格ポイント解説セミナー

半日

ISO9001・ISO14001・ISO/IEC27001

規格要求事項のポイントについて、半日で解説するセミナーです。規格要求事項を勉強したいがあまり時間が取れない」方にお勧めします。

WEBセミナー

品質	6月4日(火)	時間	13:30 ~ 16:30
環境	7月1日(月)		
情報	6月3日(月)		
URL		https://www.armsr.co.jp/mss20.html	

環境側面解説セミナー

1日

規格要求事項について、各箇条の意図や要求事項を満たすためにすべきことなどを解説。要求事項について理解を深めるためのセミナーです。

集合セミナー

日程 6月24日(月)

URL https://www.armsr.co.jp/mss12.html

規格要求事項の解説セミナー

ISO9001・ISO14001

1日

規格要求事項について、各箇条の意図や要求事項を満たすためにすべきことなどを解説。要求事項について理解を深めるためのセミナーです。

集合セミナー

品質	6月 18日(火)
環境	8月 28日(水)
URL https://www.armsr.co.jp/mss21.html	

講師派遣型セミナーのご案内

講師が組織様にお伺いし、セミナーを行う「講師派遣型（出張）セミナー」も承ります。

「決まっている日程や場所では参加しにくい」という組織様におすすめのセミナーです。

詳細につきましてはホームページにてご確認ください。
https://www.armsr.co.jp/asr_pc/onsite/

▶ ISO学習動画（e-ラーニング）

新規講座が順次開講し、約30本のコンテンツをご用意しています。新入社員むけの社員教育プログラムもどうぞご利用ください。

講座名	視聴時間
ISO関連講座（下記以外にも20以上の講座がございます）	
ISO入門セミナー ISO9001・ISO14001・ISO/IEC27001・ISO45001	1.5時間
規格ポイント解説セミナー ISO9001・ISO14001・ISO/IEC27001・ISO45001	2.5時間
内部監査員 養成講座 ISO9001・ISO14001・ISO/IEC27001（※修了証発行）	6時間
社員教育プログラム	
情報セキュリティ社員教育「キミツマール君」・Excel講座【基礎編・初級編・中級編・上級編】・Word講座【基礎編・応用編】・ビジネスマナー講座等新入社員の方に最適な講座をご用意しております。	

※視聴時間は、おおよその時間です。
規格によって若干異なります。

URL https://www.armsr.co.jp/websemi.html

セミナーや学習動画の詳細と最新情報は、ASRトップページのオレンジ色のバナー（下図）かURLからご確認ください。
※お申込みはホームページのWEBフォームからお願いいたします。

https://www.armsr.co.jp/ac/

セミナー・学習動画（e-ラーニング）に関するお問い合わせはこちら
TEL:03-3666-8624 E-mail:seminar@armsr.co.jp

いつでもどこでも、パソコンやスマートフォンで、空いてる時間に、
自分のペースで、何度でも繰り返し学習できます。

社員教育プログラム

「キミツマモルくん」シリーズ

日常業務で直面する様々な情報セキュリティリスクとその対処方法をストーリー仕立てのイラスト動画で学ぶことができます。



QMS/EMS
ISMS/OH&SMS

規格ポイント解説セミナー

規格要求事項の用語や意味について、
ポイントを短時間で解説します。



QMS/EMS/ISMS

内部監査員養成講座

内部監査員として必要な基礎知識、規格要求
事項の概要と監査技術を学べます。



修了証発行

QMS/EMS
ISMS/OH&SMS

ISO 入門セミナー

ISOを初めて学ぶ方に、「ISOとは何か？」から
規格要求事項について概要を解説します。



QMS/EMS/ISMS

ISO 基礎講座プログラム **セット**

- ・ISO入門セミナー
- ・規格ポイント解説セミナー
- ・内部監査員養成講座

上記がセットになったパッケージです。
※EMSセットには「環境側面解説セミナー」が付きま

お申込みURL <https://www.armsr.co.jp/websemi.html>

ASR 学習動画

検索



エイエスアールの スタッフ紹介

お客様に快適なサービスを



氏 名：林 恵子（はやし けいこ）
所 属：研修センター
趣 味：ダンス・ライブ観賞・家庭菜園

いつもお世話になっております。

研修センターの林 恵子と申します。この4月で入社4年
目を迎え、研修センターでの業務は2年目となります。

eラーニング関連が主な業務となりますが、お客様にご
利用いただく際のご案内全般、新規eラーニング・HPや
当広報誌を含む資料の作成等、幅広く様々な業務を行っ
ております。

さて、私事ではございますが、大学時代からの趣味の
ひとつにダンスがございます。学生時代はダンスサークル
に所属し「HOUSE（ハウス）」というジャンルをやっ
ておりましたが、現在は友人と好きなアイドルのカバー
ダンスを行うなど、趣味で続けています。

中学時代はバレーボール、高校時代は器械体操と、比較
的様々な種類のスポーツを経験してきましたが、ダンス
は「必ず観客がいて、魅せるスポーツである」という点
が、他の競技と大きく違う点だと感じております。自分
が楽しむことももちろんですが、「どうしたら見ている
人を楽しませられるか」ということにも気を配る必要の
あるスポーツだなと感じます。

現在の業務では、eラーニングやセミナー受講のお客様
とやり取りをする機会が多くございます。その際にも
「どうしたらお客様に快適にサービスをご利用いただ
けるか」ということを第一に考え、ご提供していけたら
と思っております。今後ともよろしくお願い申し上げま
す。

発行元：エイエスアール株式会社

本 社：〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町1-10-15
TEL 03-3666-8757(代) 03-3666-0478(営業部)
名古屋支社：〒450-0002 愛知県名古屋市中村区名駅4-2-5
TEL 052-533-1822
名古屋第二支社：〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄4-3-26
TEL 052-211-7102
大阪支社：〒541-0053 大阪府大阪市中央区本町4-5-16
TEL 06-4964-0120



品質・環境・労働安全衛生 情報セキュリティ



★次回発行は2024年8月の予定です。(年4回発行)
皆様からのご意見、ご感想をお待ちしております。

E-mail otoiawase@armsr.co.jp
URL <https://www.armsr.co.jp/>

ASR ISO

検索